



関西いのちの電話



通天閣と桜



♪コロナと共に現れて♪

関西いのちの電話 前事務局長 石井 英隆

その昔、普及し始めたテレビで“月光仮面”という子供向けヒーロー番組がありました。その主題歌が♪はやて(疾風)のように現れて～はやて(疾風)のように去っていく～♪でした。

思い起こせば、こちらへの着任が内定した2020年の2月に日本に寄港したクルーズ船内での感染が発覚して以来、あれよあれよという間に、日本中がコロナ禍に襲われたのでした。そんな時、全く突然頭に鳴り響いたのがこの歌詞とメロディだったのです。

もともと年齢や経歴から考えても、じっくりと何か新しい事や改善を試みるというより、リリーフピッチャーとして何とかこの組織運営を現状維持して次の方に引き継ぐのが自分の役割だと考えておりました。ですから、♪コロナと共に現れて～コロナと共に去っていく～♪、以来この替え歌が私の中のテーマソングとなりました。

そんなコロナ禍ですが、活動中止を余儀なくされるセンターが続出する中、当センターは早い時期に運営委員会に於いて、365日24時間体制を堅持することが決められて、その場にいた私は皆さまの篤い志に感動しました。幸いセンター内でクラスター(集団感染)が発生することもなく推移できたことも幸運で有難いことでした。

更に、創立50周年の年(2023年)となり移転問題までも降りかかってきました。ご尽力くださった皆さまのお陰で何とか乗り越えてまいりましたが、事務局長として皆さまの全ての想いに沿いき

れなかった力量の無さを、改めてこの機会をかりてお詫び申し上げます。

さて、語り尽くせない沢山のエピソードや出来事の中で、あえて一番記憶に残っているものを挙げれば、それは一本の苦情電話です。ある中年男性から「電話が繋がらない。すでに結論は出しているが、最後にちょっとお話がしたいと思ったのですが…」というもので、動揺や怒りもなくただ淡々と諦観したような口調が、却ってその重さ深さを伝えるものでした。もちろん私の出番ではなく、「相談担当者は間違いなく電話口において、今は他の相談者と話しているのです、ともかく繋がるまで電話を掛け続けてください。」とひたすら謝りながらお願いすることしかできませんでした。電話を切った後も、どうかだれかに繋がって欲しいと祈り続けました。

相談員の皆さまは、このような相談は何度も経験され、何人もの方を救ってこられました。なんと素晴らしい事でしょう。この矜持を胸に、それでもまだまだ電話口で応答を待ち続ける深刻な状況にある方々が多くいらっしゃることを思い起こして、より一層の研鑽と可能な限りの担当シフトの充実をお願いし期待するものです。

コロナ禍の終焉は未だのようですし移転の残務もあります。月光仮面(?)はあと暫く事務局に出没します。有難うございました!

関西いのちの電話 相談電話 (24時間365日) ☎06-6309-1121⇒(変更)⇒☎06-6772-1121*移転の為
(4月30日まで) (5月1日午前8時より)

自殺予防いのちの電話 毎日(日・祝含む) 16:00～21:00 毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00 ☎0120-783-556

関西いのちの電話 創立50周年記念 / 第27回チャリティコンサート

幸田浩子 ソプラノリサイタル

開催日：2024年2月3日(土) 会場：豊中市立文化芸術センター 大ホール



2月3日(土)、豊中市立文化芸術センターにて、創立50周年記念／第27回チャリティコンサート「幸田浩子 ソプラノリサイタル」が開催されました。

関西いのちの電話主催のチャリティコンサートは、私たちの活動を多くの方々に知っていただくこと、また組織を支えるための活動資金を皆様方にご協力いただくことを目的としています。第1回目を1996年に開催し、それ以降いずみホールでのパイプオルガンや弦楽奏をはじめ、豊中市立文化芸術センターでのアカペラやピアノ演奏など、毎年さまざまなジャンルで、質の高い音楽を楽しんでいただけるように企画運営してまいりました。

創立50周年の節目に、多くの実績を持ち多方面で活躍されている、オペラ界を代表する幸田浩子さんをお招きして、「ソプラノリサイタル」を開催できましたことは大変ありがたく、多くの方々が訪れてくださったことに心より感謝申し上げます。

幸田浩子さんは、豊中市出身。東京藝術大学首席卒業。同大大学院、文化庁オペラ研修所終了後、渡欧。数々の国際コンクールで上位入賞後、欧州の主要歌劇場で次々とデビュー。ローマ歌劇場等大舞台で重要な役を演じ、名門ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約されました。帰国後はさまざまな活動を展開されており、魅力あふれる歌声は幅広い層から支持されています。

第一部は、オペラ『ロミオとジュリエット』より「私は夢に生きたい」から始まり、2曲目は「アヴェ・マリア」と早くもソプラノの魅力が満載。情感たっぷり、空気が澄み渡るような歌声に観客は早速引き込まれていきました。ピアニストの藤満健さんも関西出身で、お二人とも今回のコンサートを心待ちにしてください、24時間365日活動している関西いのちの電話に関心を示され、いのちを考える時間にしていきたくてお話しされました。

続いて、後来に歌い継いでいきたい日本の歌から「浜辺の歌」、「初恋」、「花のまち」を郷愁たっぷりに歌われました。その日本語の美しさはストレートに響き、私たちの心に沁み入るようでした。さらに、藤満さんが「日本のうた」メドレーをピアノソロで演奏され、その卓越した表現力に観客は魅了され、公演

後にも感動の声が多く寄せられました。

一部を締めくくる曲は、時代が変わっても色あせることのないJ-POPの名曲から藤満さんの編曲で「ハナミズキ」、「糸」。ソプラノの魅力をも十分に活かした美しい歌声と豊かな表現力で、人を想う気持ちを込め、祈りを捧げるように歌われました。

第二部は、昨年に引き続き賛助出演してくださった豊中少年少女合唱団による合唱「いのちの歌」で始まりました。歌詞に込められた「生きていることや人との出会いに感謝すること」を、子どもたちの透き通った歌声と素敵なハーモニーで、観客の心に届けてくれました。その後ステージに登場された幸田さんは「いのちのきらめきを感じ、目頭が熱くなりました。今を懸命に生きていこうという気持ちになりました。」とお話をされ、「星に願いを」を歌いあげました。藤満さん編曲によるミュージカル「サウンド オブ ミュージックメドレー」では、幸田さんが「テーマ」、「わたしのお気に入り」、合唱団が「エーデルワイス」、共演で「ドレミの歌」と続き、会場から沸き起こった温かい手拍子により、体全体が音楽で包まれ、優しく励ましてくれる時間となりました。



フィナーレの「あしたのうた」では、生きることへの希望や励ましが伝わってきました。続いて、イタリアのポップス界を代表する作曲家ベッペ・ドンギア氏が幸田さんのために書き下ろした「カリヨン」。美しく遠方まで響き渡る透き通った歌声が会場をそっと優しく、温かく包み込みました。

今回のコンサートは、幸田さんの天使の歌声のようなソプラノで観客を魅了してくださいました。加えて、いのちの電話の活動に共鳴し、また卓越したアレンジによりいのちの大切さを深く心に刻むものとなりました。「幸田さん、藤満さん、豊中少年少女合唱団からまっすぐにいのちの大切さを訴えていただいた」「とても温かい、気持ちの良いコンサートでした」「久しぶりに美しいものに触れ、心が洗われる時間でした」との声を皆様よりたくさんいただきました。

創立50周年記念／第27回チャリティコンサートが大盛況に終わり、心温まる時間となりましたこと、心より感謝申し上げます。

関西いのちの電話「50年の歩み」

関西いのちの電話は、昨年9月に50周年を迎え、今年の5月1日から新しい場所に活動拠点を移します。そして新たな場所で、更に歴史を刻み続けます。この節目の時に、積み重ねてきた50年間の出来事を礎に、相談員一同が、これからも「相談電話」の市民活動を引き継いでいきます。

- ① 「関西にもいのちの電話を」と2年間の準備を経て、1973年9月25日午前0時、東京に続き二番目に相談活動がスタートしました。その時の相談員は、1年間の養成講座を修了した150人ほど。開局と同時に電話は鳴り止まず、この日の受信件数は119件、半年間で4767件でした。
- ② 活動が軌道に乗り始めると創立当初のセンターが手狭になり、創立から4年後、移転が決定しました。その間電話業務は一日も滞ることなく、相談員全員が自分の役割を自覚しつつ、一人ひとりの力を結集し、1977年8月10日、新センターにて電話相談活動が始まりました。
- ③ 1978年10月、創立5周年記念式典が開催されました。1979年12月、懸案であった社会福祉法人の認可を受け、特定の宗教色を持たず、ボランティア相談員による24時間体制の市民活動として歩み始めました。対外的には外国と広い視野での交流活動が展開されました。
- ④ 1983年、創立10周年に合わせて、「孤独な心を支える—愛と共感のカウンセリング—」が出版され、映画「叫びとささやき」を製作し、内外の広報活動として上映されました。この時期、相談活動の活性化、資質向上を目指した体制作りが進められ、現在に至っています。
- ⑤ 1995年1月17日 阪神淡路大震災発生。相談員の安否確認（被災者約30名）、緊急体制が敷かれました。消息の分からない人を訪ねたり、支援物資を届けたり、相談業務が滞らないよう協力体制で臨みました。動揺する相談員も多く、被災者と共にお互いの心のケアも必要でした。
- ⑥ 1995年は大震災をきっかけに「ボランティア元年」と呼ばれています。翌年の相談ボランティア養成講座の申し込みが200名を超え、相談員数は過去最高の437名。その後減少傾向にあり、2022年は353名。対策が求められています。
- ⑦ 1995年6月24日、「第20回日本自殺予防シンポジウム大阪大会」を主催開催しました。（日本いのちの電話連盟/日本自殺予防学会共催）「いま、死を見つめる」というテーマは、大震災、オウム事件をきっかけとして、価値観の転換という大きな流れに一石を投じました。
- ⑧ 2001年12月、日本いのちの電話連盟が厚労省の委託を受け、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」がスタート。（全国48センター参加）2007年9月より毎月10日、午前8時～翌日午前8時の24時間、通話料無料電話相談として現在に至っています。
- ⑨ 2003年、創立30周年を迎えました。発足以来、孤独に震える声や叫びを聴き続け、その受信件数は52万件に。自殺者が年間3万人を超える状態が5年間も続いており、改めて相談電話の果たす役割は何かを問い直しました。
- ⑩ 2011年3月11日 東日本大震災発生。日本いのちの電話連盟は急遽フリーダイヤルを実施しました。3/28～4/9 8時～22時、被災地からの電話を受けました。関西いのちの電話の受信件数は52件。その後、9月11日より毎日、「いのちの電話 震災フリーダイヤル」が実施されるようになりました。
- ⑪ 創立40年目を迎えた2013年10月、第31回いのちの電話相談員全国研修会 おおさか大会開催。テーマ「わすれてへんであんなのこと～みんな誰かの大切な人～」を掲げ、関西いのちの電話総力を結集し、基調講演/分科会/ワークショップ等、多くの学びのある大会となりました。
- ⑫ 2020年からのコロナ禍、人々は不安と恐怖を感じ孤独と闘ってきました。一人親家庭、非正規労働者、若年層や女性などに打撃を与え、人々の心を直撃し、DVや虐待などを深刻化させました。苦しむ人々に寄り添える、質の高い電話相談活動をめざし、悩みながらも努めています。
- ⑬ 20代以下の自殺者数は'21年まで3年連続増加の一方、いのちの電話への20代以下からの相談は15年間で3分の1に。背景に、若者の電話離れがあるとみられています。いのちの電話の存在を知ってもらいたい。'21年6月、作成した〈関西いのちの電話カード〉を大阪府内の大学に配布しました。
- ⑭ 2024年5月1日に、4月現在の活動拠点である大阪市淀川区十三の地から、大阪市生野区の新しい場所に活動拠点を移します。1977年から十三で相談活動を続けて47年弱、新しい活動拠点で、更なる「50年」を歩み続けます。

【関西いのちの電話の電話番号が変わります】

移転に伴い、電話番号が以下になります。

●相談電話 5月1日 午前8時より 06-6772-1121

※従来の電話相談番号は、直前まで通じます。

●事務局電話 5月2日 午前10時から 06-6795-4860 FAX 06-6795-4861

※従来の電話番号は、4月26日午後5時で終了します。

あたたかいご支援ありがとうございます

2023年10月1日～2024年1月31日までに、次の方々から社会福祉法人関西いのちの電話への寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。(五十音順 敬称略)

【個人】

赤毛 富美	今村 良子	門脇 徹	佐藤 雅子	高島 美智	中田 仁	平野 雄二	安永 繁美
浅井 良子	入江 正子	神谷 尚孝	佐野 恒子	高田 美樹	長野加代子	平松 純子	山内 通生
浅田 こと	岩井 國男	岸本 彰五	澤田 悦子	高橋 明	中野 爲夫	藤田 淑雄	山北 歎伺
浅野 敏行	岩崎 正治	楠木 一正	山藤 和子	高谷 三郎	中野 桂子	古坂 啓子	山口 博子
阿部 茂	岩本 和代	クボタヨシロ	柴峠 隆士	竹花 正子	中村 勝吾	細田 敦子	山口 健一
新川 久義	上野 克志	熊田 充孝	島田 眞一	竹村 武男	並川 昌子	堀口 節子	山崎 慶子
荒木 寛子	鵜飼奈津子	黒田 益弘	下岡 佳子	竹本 玲子	西川みゆき	菅田 俊郎	山下 薫
有岡久美子	疇地 道俊	劔持 寛人	東海林恭子	田代 千鶴	西田 和子	前田 幸子	山村 雅勇
碓 哲二	宇野喜旬子	康 由美	正村 宏子	タニシヒロキ	西村 和子	正井 陽子	山本 雅司
井口 薫	江崙 和子	河野 友弘	白方 誠彌	田村ノブヒロ	石附 康子	待田 順治	山本 久美
井口三千代	榎本 貴夫	後藤 節子	スガウイチロウ	土屋 俊平	野崎 京子	待田 稔子	伊勢田美奈子
石田 雅一	大坂 雅巳	小林 誠	菅谷 道子	筒 友祐	野田 政安	松浦 由佳	吉村 真弓
石田 美保	大津 久直	小林 聡	杉浦美智子	妻鹿 泰子	橋本 和子	松野 五郎	吉村 幸三
石田 美郎	大畑 了子	篠田 茜	杉浦眞喜子	道免 逸子	浜本由紀子	三木 靖一	米澤 澄子
石名田恵美子	小川 弘二	米虫 克次	杉本 康博	富塚 恵子	林 竜弘	水中 照子	劉 賢祥
石野 泉	奥田 征子	近藤 泰弘	杉本 哲子	中尾 克己	林 幸	ミヤザキヒロシ	渡辺 讓
イソダミネコ	小國 央恵	阪下 誠	杉山 邦子	中尾 恵子	原 澄子	茂木 洋子	匿名 24名
磯田由美子	落合 雅子	佐々木由利子	隅田 保	中島 順次	東出 君子	柳生 裕之	
乾 純代	桂 典子	佐々木 薫	曾田 良子	中島 和子	日野 基子	安岡久美子	
今谷 由美	加藤 敦史	佐治千栄子	高島 幸二	中嶋 末子	平尾 一幸	安田 一之	

【団体】

愛徳カルメル会 本部修道院	久米田病院	日本基督教団 聖峰教会	梅花中学校・高等学校
(有)あさひ保険	小池診療所	日本基督教団 塚口教会	正岡クリニック
援助マリア修道会	合資会社 寿屋	日本基督教団 天満教会	(株)マツヤ
大阪北教会 婦人会	在日大韓基督教会上社保育園	日本基督教団 豊中教会	溝口医院
大阪クリスチャンセンター	聖バルナバ病院 礼拝堂	日本基督教団 東梅田教会	武庫之荘教会
大阪東十三教会 ひつじ会	聖母奉獻修道会	日本コウジ・システム株式会社	米谷クリニック
大阪府共同募金会	SOMPO 福祉財団	日本自由メソヂスト布施源氏ヶ丘教会	クラレチアノ宣教修道教会
小林聖心女子学院高等学校	中村医院メンタルクリニック	日本聖公会 大阪教区婦人会	大阪帝塚山ライオンズクラブ
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会	日本イエスキリスト教団 垂水教会	日本聖公会 大阪聖愛教会	レデンプトリスチン修道院
カトリック鈴蘭台教会	日本基督教団 阿倍野教会	日本聖公会 川口基督教会	六甲学院中学校・高等学校
カトリック玉造教会	日本基督教団 大阪教会	日本バプテスト宣教団 池田キリスト教会	匿名 2 団体
カルメル会修道院	大阪東十三教会 女性の会	日本バプテスト連盟 大阪教会	

バザー等協力【個人】

大下 悦子 假谷 登 小山 有紀 志摩ひろみ 高村 秀子

バザー等協力【団体】

江崎グロコ株式会社

◎他に相談員・理事・評議員・有志などが支えています。

クラウドファンディングのお礼

今、私たちが相談をお聴きしている建屋が、老朽化のため2024年5月1日に移転することになりました。移転には多額の費用がかかり、その移転費用の補填のために、2023年12月よりクラウドファンディングを行いました。その結果、72名の方より1,075,000円のご支援をいただきました。多くのご支援、応援メッセージに、心より感謝申し上げます。いただいた寄付金は、施設の移転費用に活用させていただきます。

このたび、全国の方からご支援いただき、関西いのちの電話が少なからず必要とされていることを実感いたしました。これからも、一人でも多くの声に耳を傾け、活動を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

こんなこともやりました！ありがとうございました！

2023年11月～2024年3月

注記：連盟 = 一般社団法人 日本いのちの電話連盟

- ・11月11日 バザー（聖贖主教会）
- ・11月20日 連盟 西ブロック事務局長研修会（福岡2名参加）～21日
- ・12月1日 大阪市精神保健福祉審議会 自殺防止対策部会（事務局長出席）
- ・12月19日 第4回理事会
- ・1月16日 連盟 中部・近畿ブロック会議（滋賀 理事長出席）
- ・2月2日 連盟 全国交流会1回目（リモート3名参加）
- ・2月3日 第27回チャリティーコンサート主催（豊中市立文化芸術センター）
- ・2月9日 大阪府被害者支援会議・代表者会議（事務局長出席）
- ・2月17日 連盟 全国交流会2回目（リモート3名参加）
- ・2月24日 神戸いのちの電話 全体研修会（8名招待参加）
- ・3月1日 大阪府自殺対策事業報告会（事務局長参加）
- ・3月12日 第5回理事会
- ・3月24日 大阪 I ソンタクラブ例会（事務局長挨拶）

永年相談活動者の「思い」

2024年3月23日(土)に認定式と永年感謝式が開催され、2年間の養成実習を終え認定された58期生21名に認定証が贈られました。また、相談活動10年(48期)の方17名、20年(38期)の方2名、30年(28期)の方4名、そして40年(19期)の方2名に感謝状が贈られました。

永年相談者を代表して、3名の方に、活動を続けてこられたことを振り返り、その「思い」を語っていただきました。

三十年を振り返って

いのちの電話に関わる事になったのは、ボランティアをしたいというより、人の気持ちを少しでも理解できる人になりたいという自分の願いからでした。子どもに関わる仕事をしていたので、子どもに寄り添いたい、気持ちを理解したい、学んで役に立てたい一心でした。夫が「自分ではできないけど、やるのなら応援する」と言ってくれたことも大きな励みでした。今思えば子育て、仕事と忙しい毎日の中でよく続けられたと思います。スーパーバイザーからは「辞めても良いし、無理することはない」と言われたこともありましたが、修行、使命感のようなものを感じ辞められませんでした。

30年の年月の中で、大切な家族の死や介護が次々と降りかかってきて、まともに当番に出られない時期もありました。悲しみ、苦しみを乗り越えて来られたのは、いのちの電話に関わらせてもらっていたからだろうと思います。自分が苦しかった時も自分一人が苦しいのではないと思え、周りの人に支えられながら時間と共に乗り越えていく事ができました。電話をかけてこられる人を支えたいと思っていましたが、自分がこの電話に支えられて生きてきたのだらうと感じます。当番に向かう足取りは重くしんどいものでしたが、帰途に着く時は、ほっとし、時に充実感も味わわせてもらいました。かけ手からは多くの事を教えてもらいました。研修ではいつも聴くことの難しさを感じ、寄り添えるようになりたいと願いながら続けてきました。また、自分の見えていなかった自分に気づかされ、向き合わされました。いのちの電話で学んだ事は自分の宝だと思えます。これまで多くの方に支えられながら続けてこられたことに感謝しています。

28期 T.H.

20年の中で

相談員としての20年間は驚くほどに早いものでした。その中でも特に強く印象に残っているのは、たまたま偶然に談話室で顔を合わせた際に、ある先輩が私相手に心の内を吐露されたことです。彼女は深く親交があった同期の相談員のご友人を病気で亡くされ、私もまた亡くなった彼女を知っていたことで、とつとつとどちらからともなく話をしたことで生まれた時間でした。

私よりも人生の先輩である思慮深い方が、まさか年下の期も若い私に対して吐露されるとは思ってもいなかったのです。が、亡き彼女との出会いから続いてきた交友関係、彼女のお人柄やご家族のこと、彼女の闘病中の様子、亡くなった後のこと、今の気持ち、これからのこと…と、心のままに時には声を震わせてお話し下さいました。

普段の生活の中ではきっと今の時間はない。相談員としてお互いに信頼関係があるからこそ、世代関係なく繋がることのできるんだ…と、話を聞きながら思ったことを覚えています。これからも相談員を続けていく上で、私は同じ仲間として繋がる人を大事にしていのちの電話を続けていきたいと思っています。

38期 Y.N.

10年を振り返って

カウンセリングを学び始めて5年が過ぎ、少しずつ人の話が聴けるようになってきたころ、以前より気になっていた「いのちの電話」に関わりたいたいの思いが強くなり、妻に「いのちの電話を始めてもいいか」と訊いたのを懐かしく思い出します。相談員に応募して、事務局長との面接のとき、「今までに仕事で最も辛かったことは何ですか」と質問され、「入社してもやるべき仕事が多かったときです」と答えたことを鮮明に覚えています。

あれから10年が過ぎましたが、5年ほど前には、仕事のストレスからメンタル不調になりグループリーダーにご配慮をいただいたこともありました。それでも、何とか、今日まで続けてこられたのは、家族はじめ、事務局の皆様、同期の仲間の支援があったからこそと感謝しております。

相談員として10年が経ったとはいうものの、時には、かけ手から叱責を受けたり、時には、応答に困窮してしまったり、時には、突然、電話を切られたりと、かけ手の話を聴いていたのかと振り返ることが絶えません。一方で、かけ手の話をお聴きし、その生き方から新たな学びを得たりすることもあり、私自身の生き方を振り返る機会になることもありました。これからも、関係者の皆様のご支援を受け、感謝の気持ちを持ち続け、次の10年に向けて、かけ手の話に耳を傾けていきたいと思えます。

48期 M.S.

相談ボランティア募集中!

第60期電話相談ボランティア養成講座のご案内

募集締切:2024年6月20日(木) 必着

養成期間:1年目 2024年7月~2025年6月
2年目 2025年7月~2026年6月

内容:1年目は1日研修および週1回の講義と実習
2年目はインターンとしての実習および各種研修

費用:1年目 50,000円 2年目 20,000円

お問合せ:関西いのちの電話事務局

4月26日 午後5時まで 06-6308-6868

5月2日 午前10時から 06-6795-4860





問いかけることと共感

今号のこの欄には、「問いかけることと共感(25)」が掲載される予定でした。しかし、著者の長尾文雄氏が、昨年12月17日(83歳)にご逝去されたため、掲載ができなくなりましたことをお知らせ申し上げます。

振り返りますと、長尾文雄氏におかれては、この欄は、相談ボランティアが、電話相談のキーワードである「傾聴」「共感」に囚われ不自由になっている様子から、少しでもその囚われから解放できないかという思いで書き始められた短文でした。

1993年5月1日から始まり今日まで、年3回発行のこの広報誌に、計104回、約30年間の長い期間、掲載されてきました。

- 1.「共感」 1993.3—1998.1
- 2.「共感ってなに?」 1998.5—2008.12
- 3.「傾聴と共感」 2009.4—2015.12
- 4.「問いかけることと共感」 2016.4—2023.12

それらは折に触れ、まとめて冊子として発行されており、電話相談にかかわる相談員には、貴重な学びの資料になっています。

また、社会福祉法人「関西いのちの電話」での長尾文雄氏のお働きは、その著述のみならず、
 ☆研修委員 1981年—2010年
 ☆グループリーダー 1981年—2010年
 ☆事務局長 1991年・1994年
 ☆理事 1991年—1996年
 ☆記録分析委員長 1996年—2023年
 ☆40・50創立記念誌編集委員長 2013年・2023年
 と、数々の役を引き受けていただき、多大な貢献をしていただきました。

長い間、本当にありがとうございました。
 心より哀悼の意を表しますと共に、
 氏の安らかな旅立ちをお祈りいたします。

広報委員一同



2024年 傾聴セミナー&電話相談ボランティア説明会

昨年に引き続き、本年も「傾聴セミナー」を、下記の日時と場所で開催します。

講師として、松本 剛氏(神戸親和大学 教授)「カウンセリングという関係」

水野泰行氏(関西医科大学附属病院 心療内科医師)「傾聴するということ」を、お迎えして、聴くことの大切さを学びます。

- 4月27日(土) 13:30~15:00 講師:松本 剛(天満橋ドーンセンター 5階)
 5月 7日(火) 19:00~20:30 講師:水野泰行(大阪駅前第2ビル 6階)
 5月18日(土) 13:30~15:00 講師:松本 剛(天満橋ドーンセンター 5階)
 5月28日(火) 19:00~20:30 講師:水野泰行(大阪駅前第2ビル 6階)
 6月 8日(土) 13:30~15:00 講師:松本 剛(天満橋ドーンセンター 5階)

◆参加費:500円 ◆定員:30名 定員になり次第締め切り

◆申込・問合せ:関西いのちの電話事務局 ※移転の為番号が変わります

TEL:06-6308-6868 FAX:06-6308-6180 ※いずれも4月26日まで

TEL:06-6795-4860 FAX:06-6795-4861 ※5月2日から

E.mail:kaind@x.age.ne.jp

電話相談ボランティア養成講座の募集要項は、関西いのちの電話ホームページに掲載しております。

この広報誌は、令和5年12月に実施された大阪府共同募金会の助成を受けて発行しています。府民(寄付者)のみなさまに感謝いたします。

編集後記

今号177号は4月1日発行、移転先の新しい拠点での相談電話開始日は5月1日、残りきっちり1か月で、47年弱活動した場所から他の場所に「変わる」。

今号には複数の相談員の手記が掲載、30年20年10年の「思い」が綴られている。巻頭記事「風」では、コロナ禍の時期に就任、収束に合わせ辞職される事務局長の4年間の「思い」が語られている。追悼文には、30年に亘って広報誌に連載された「傾聴と共感」シリーズに対する執筆者長尾氏の「思い」が記されている。

4月1日に広報誌上でそれぞれの「思い」が交わり、違った形式で「変わり」、交わらなくなる。2014年7月号から今号まで約10年間編集後記の執筆者であった我が「思い」も交わり、最後の編集後記となることで「変化」が起きることを期待する。(H.S)

電話相談受信状況(2023年~2024年)

受信月	11月	12月	1月	2月
受信件数	1,476件	1,556件	1,458件	1,446件
相談員数(延)	429人	438人	409人	422人

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
 TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180 (4月26日まで)

新住所: 〒537-0024 東成鶴橋駅前郵便局留
 新電話番号: TEL 06-6795-4860 FAX 06-6795-4861 (5月2日から)

発行人 李清一 編集 広報委員会

ホームページ <https://kaindnew.com>

